

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:平成31年2月21日

事業所名 オールケア守口

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		多機能型施設の利を生かし、生活介護のホール等で交流等を取り入れ、施設全体を広く活動の場として捉えている。	左の認識を強化し、より充実した稼働を提供していく。
	2	職員の配置数は適切である	○		個の力の底上げのため、研修等を実施している。	増員を目指し、更に実践的な研修を行う。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○		環境整備に注力している。	更に機能的な場を維持できるよう業務改善を行う。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		キャリアパスを活用し、各自を目標の実践と振り返りが行っている。	より明確な個の全体の目標達成と振り返りを行えるよう育成を徹底する。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		日々の送迎、児発管によるモニタリング等で広く意見をお聞きし、全体で検討している。	業務改善の内容を相談者にフィードバックしていく体制を強化する。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		実施している。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○	内部監査を実施し、業務改善に努めている。	左記の取り組みを更に強化していく。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		実施している。	更に実践的な研修を行い、個の力を底上げしていく。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		実施している。	モニタリング機能を更に強化し、よりきめ細やかな支援計画と支援介入を行う。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している		○	定型のツールは使用していないが、学校や主治医との連携により、子どもの適応行動の状況把握を行っている。	左記の取り組みについて、関係機関との連携をより密に図っていく。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		実施している。	療育プログラムに則り、左記の内容を深めていく。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している		○	放課後の利用時には個別活動が中心になっている。	療育プログラムに則り、集団活動にも注力する。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している		○	個別支援計画の周知に努めている。	療育プログラムに則り、療育を展開していく。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		計画されているが必ずしも毎回実施できているとは言えない。	ガイドライン総則に照らした療育プログラムに則り、活動を充実していく。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		朝礼と終礼議事録の共有を行っている。	左記の取り組みを更に強化していく。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		終礼議事録、経過記録の共有を行っている。	左記の取り組みを更に強化していく。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		経過記録の共有をし、適宜ケース会議を設けている。	左記の取り組みを更に強化していく。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		3ヶ月毎モニタリングを実施し、適宜ケース会議を設けている。	左記の取り組みを更に強化していく。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている		○	ガイドライン総則を共有している。	ガイドライン総則に照らした療育プログラムに則り、活動を充実していく。

関係機関 や保護者との 連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		実施している。	更に個の力を底上げし、充実した会議を実施していく。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		実施している。	保護者、関係機関との連携を更に緊密に図っていく。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	○		実施している。	左記の取り組みを更に強化していく。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている		○	保護者からの情報で周知している。	関係機関との連携を更に深めていく。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○		実施している。	左記の取り組みを更に強化していく。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		○	実施できていない。	実施する。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○		十分とは言えないが、実施している。	関係機関との連携を更に深めていく。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○		十分とは言えないが、実施している。	関係機関との連携を更に深めていく。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		日々の送迎、児発管によるモニタリング等で広く意見をお聞きし、全体で検討している。	左記の取り組みを更に強化していく。
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		○	面談や日々の送迎時などに相談を受けている。	よりの確な支援の為、ペアレントトレーニングについての学びを深める。	
保護者への 説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		実施している。	左記の取り組みを更に強化していく。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		日々の送迎、児発管によるモニタリング等で相談をお受けし、適宜関係機関へ繋いでいる。	左記の取り組みを更に強化していく。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○	実施しているが、参加人数は振るわない。	求められる交流の場を設けることができるよう、保護者と共に検討していけるように働きかける。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		実施している。	左記の取り組みを更に強化していく。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		実施している。	左記の取り組みを更に強化していく。
	35	個人情報に十分注意している	○		実施している。	左記の取り組みを更に強化していく。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		実施している。	左記の取り組みを更に強化していく。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		実施している。	左記の取り組みを更に強化していく。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○	実施している。	左記の取り組みを更に強化すると共に、必要な情報を発信していく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○	実施している。	左記の取り組みを更に強化すると共に、必要な情報を発信し啓発機能を強める。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○	実施している。	左記の取り組みを更に強化していく。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○	実施している。	左記の取り組みを更に強化していく。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○	実施している。	左記の取り組みを更に強化していく。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○	実施している。	左記の取り組みを更に強化し、迅速な業務改善を行う。

保護者等からの放課後等デイサービス事業所評価の集計結果(公表)

公表:平成31年 2月 21日

事業所名 オールケア守口

保護者等数(児童数)16

回収数 11

割合 69%

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	6	3	2			多機能型施設の利を生かし、生活介護のホール等で交流等を取り入れ、施設全体を広く活動の場とする。
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	5	6				来期増員を目指すと共に、現在の個の力を底上げしていけるよう研鑽する。
	3 事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか	11					
適切な 支援の 提供	4 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画*1が作成されているか	10	1				児発管がより丁寧な説明を行い、どの職員でも支援について回答できるようにする。
	5 活動プログラム*2が固定化しないよう工夫されているか	8	2	1			職員間でガイドライン総則を共有する。
	6 放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	3	5	2			策定する療育プログラムに沿って社会参加に重点を置き、関係機関との連携をより密に図っていく。
保護者 への 説明等	7 支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	8	2	1			児発管がより丁寧な説明を行い、どの職員でも支援について回答できるようにする。
	8 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	10	1				児発管がより丁寧な説明を行い、どの職員でも支援について回答できるようにする。
	9 保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	9	1	1			児発管がより丁寧な説明を行い、どの職員でも支援について回答できるようにする。
	10 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	10	1				必要とされる保護者交流の在り方を模索していけるよう働きかけている。
	11 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	6	3	2		苦情対応は早い時間が経つと同じ事が起きる	ヒヤリハットを活用し苦情に至らない努力をする。事象についての理解を深める機会を設け、相談者にフィードバックする。
	12 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	9	3				保護者との連絡相談を密に取り、情報共有を図る。
	13 定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか	7	3	1			機関誌の在り方を職員全体で検討し、精査した上で必要な情報を発信していく。
	14 個人情報に十分注意しているか	10			1	どのような対策をしているのかわからない	年に一度の施設会報にて、コンプライアンス遵守の取り組みについて発信していく。
非常時 等の 対応	15 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか	9	2			緊急時と防犯に関する発信がない	年に一度の施設会報にて、コンプライアンス遵守の取り組みについて発信していく。
	16 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	5	4		2	行われているのだからわからない	機関誌の在り方を職員全体で検討し、精査した上で必要な情報を発信していく。
満足 度	17 子どもは通所を楽しみにしているか	11					
	18 事業所の支援に満足しているか	6	4	1			支援の方向性について、児発管を筆頭に職員全体で保護者と共に検討していけるようモニタリングを強化している。

\*1 放課後等デイサービスを利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的な内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のこと。放課後等デイサービス事業所の児童発達支援管理責任者が作成する。

\*2 事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のこと。子どもの障がい特性や課題、平日/休日/長期休暇の別等に応じて柔軟に組み合わせられて実施されることが想定されている。